

[ナシ樹体ジョイント仕立ての検証による東京型改植モデルの確立]
異なる樹形で樹体ジョイントした「稲城」の生育特性および作業時間
～ジョイント2年目～
杉田交啓・荒井那由他
(園芸技術科)

【要 約】 ナシ樹体ジョイント仕立てジョイント2年目の生育は、平棚区よりV字区で平均枝長は長くなるが、両区で結果枝として十分な枝長を確保できる。せん定および着果管理時間は、平棚区よりV字区で長くなる。

【目 的】

東京都における早期成園化技術を実証するために、特産品種である「稲城」の樹体ジョイント仕立て法（以下、ジョイント）を行い、樹形および品種の違いによる影響を明らかにしてきた。昨年度に引き続き、本年度は、ジョイント2年目の樹体生育を把握し、品種及び樹形の差を明らかにする。あわせて、作業時間についても評価する。

【方 法】

1. 自家育苗した「あきづき、幸水、稲城」を、2018年7月所内沖積土圃場に定植した。樹形は平棚ジョイント（以下、平棚区）とV字ジョイント（以下、V字区）とした（図1）。植栽間隔は株間1.5m、列間3mとし（162本/10a）、3本/ユニットとし、各品種・各区3ユニット供試した。
2. 樹体生育については、有効主枝長、発生部位ごとの枝数、枝長等について調査した。作業労力については、せん定、着果管理、夏季誘引について調査した。
3. 栽培管理は、「ニホンナシの樹体ジョイント仕立て栽培管理マニュアル(神奈川農技セ)」を参考に行った。

【成果の概要】

1. 樹体生育：1樹あたりの枝数は平棚区「幸水」が少なかった（表1）。平均枝長は全区で2019年度より長くなり、結果枝として十分な長さが確保できた。
2. 部位別発生状況：部位別の枝数は、全体的に短果枝の割合が高く、平棚区「幸水」で高かった（図2）。長果枝数は、基部よりも先端で多い傾向だった。平均枝長は、「幸水、稲城」平棚区よりV字区で長かったが、「あきづき」は差がなかった。枝の誘引角度が高く、樹勢が強く維持できたと考えられる。発生部位別の枝長は、基部で長く、先端で短かった。
3. 作業性：せん定および着果管理時間は、「あきづき、幸水」の平棚区よりV字区で長くなった。「稲城」の両区で着果管理時間が他品種より少なかったが、これは春先の低温等による着果率低下の影響である。夏季誘引時間は樹形による差はなかった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 引き続き、3年目以降の生育特性を明らかにする。

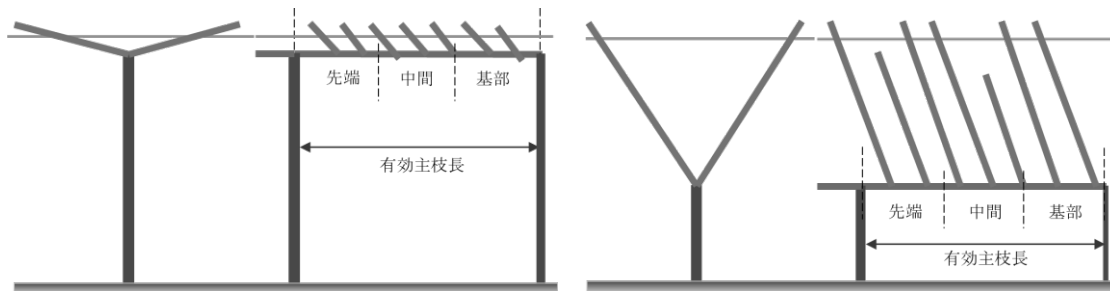


図1 樹形の模式図（左：平棚ジョイント，右：V字ジョイント）

表1 ナシジョイント樹の樹体状況

樹形	品種	2020年度				2019年度			
		有効主枝長 (cm)	枝数 (本/樹)	節間長 (cm)	枝長 (cm)	枝数 (本/樹)	節間長 (cm)	枝長 (cm)	
平棚	あきづき	190.3	23.8	8.0	52.8	32.6	4.9	12.8	
	幸水	175.0	19.9	8.8	63.1	22.9	6.6	17.1	
	稲城	180.7	27.3	6.6	40.6	28.7	5.7	17.8	
V字	あきづき	193.2	26.0	7.4	42.5	30.3	5.8	26.9	
	幸水	191.7	27.1	7.1	70.7	25.0	7.6	28.6	
	稲城	188.0	27.9	6.7	64.0	28.1	6.3	21.3	

注) 2020年11月13日及び2019年11月19日調査。

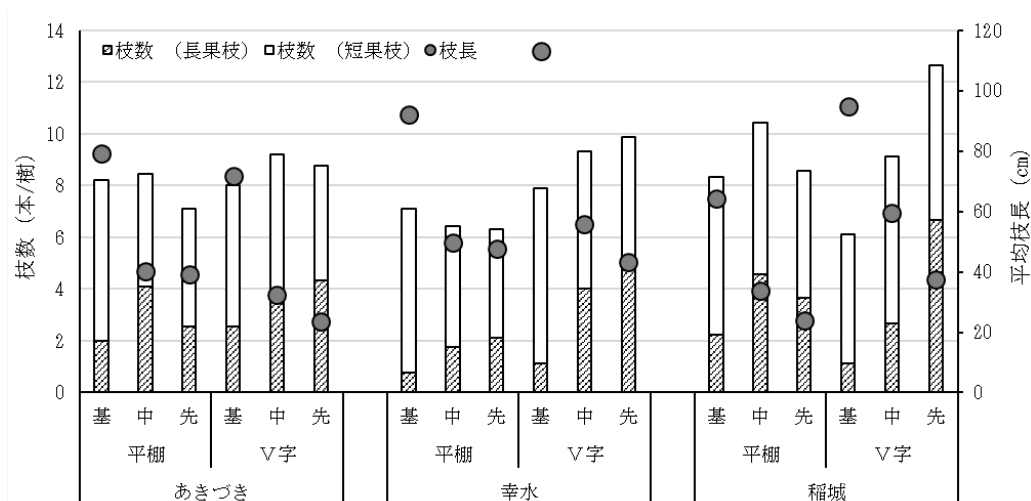


図2 ナシジョイント樹の部位発生枝数および枝長

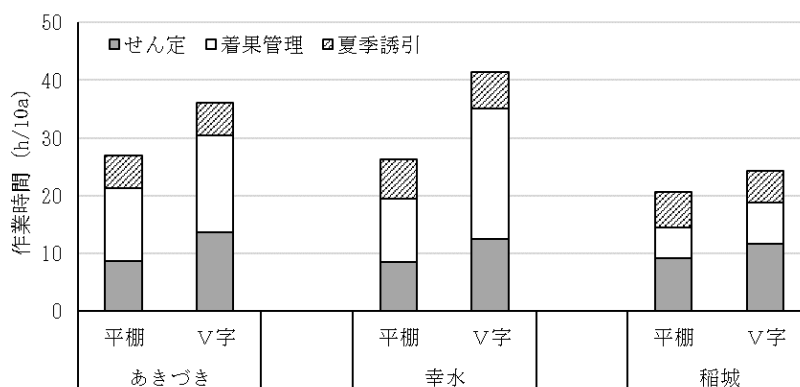


図3 品種および樹形の違いが作業時間に及ぼす影響

注) 着果管理は、摘蕾・受粉・小花とり・摘果・袋かけの合計